

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

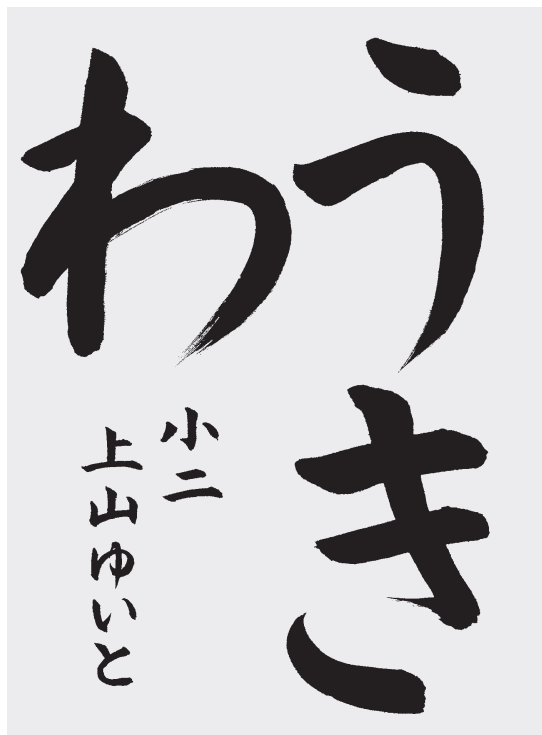


大町青蓮先生

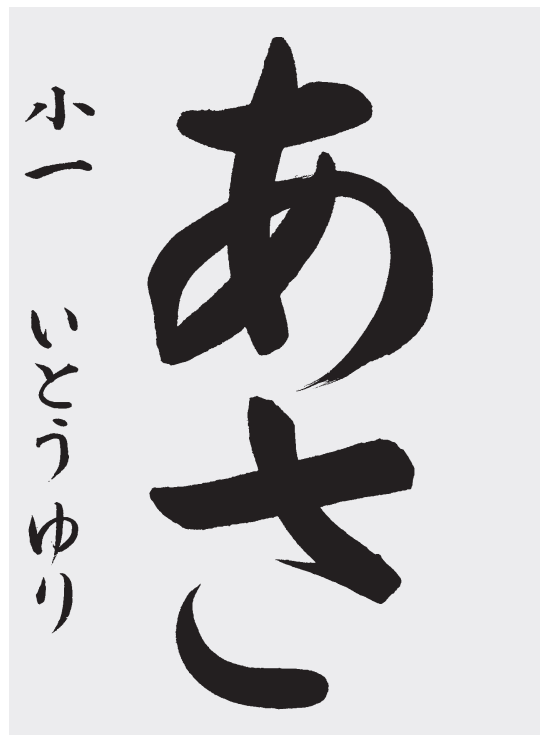
幼・小学1年参考手本



名越蒼竹先生



稲垣小燕先生



川島舟錦先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



崎井恵風先生

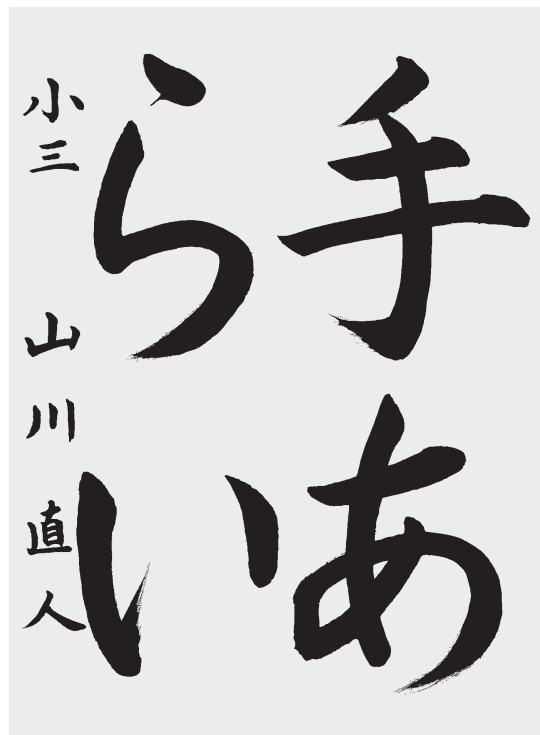


種谷萬城先生

小学3年参考手本



小竹石雲先生



坂本素雪先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



工藤永翠先生

小学5年参考手本



小浜大明先生



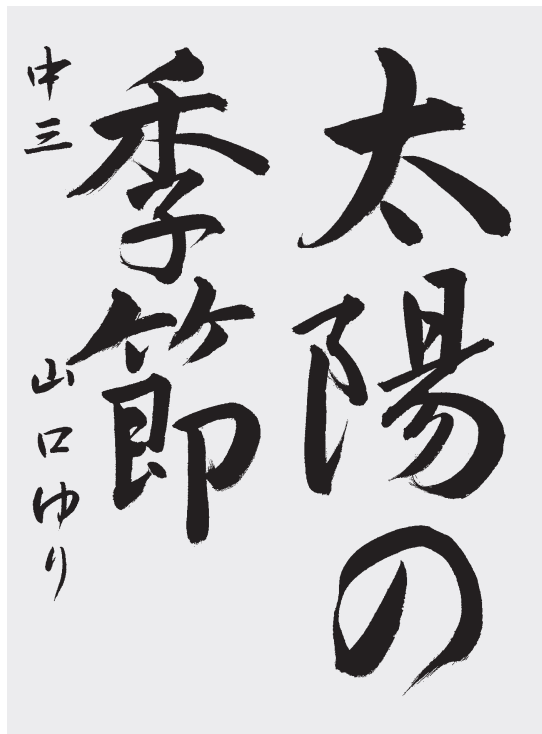
川村美泉先生



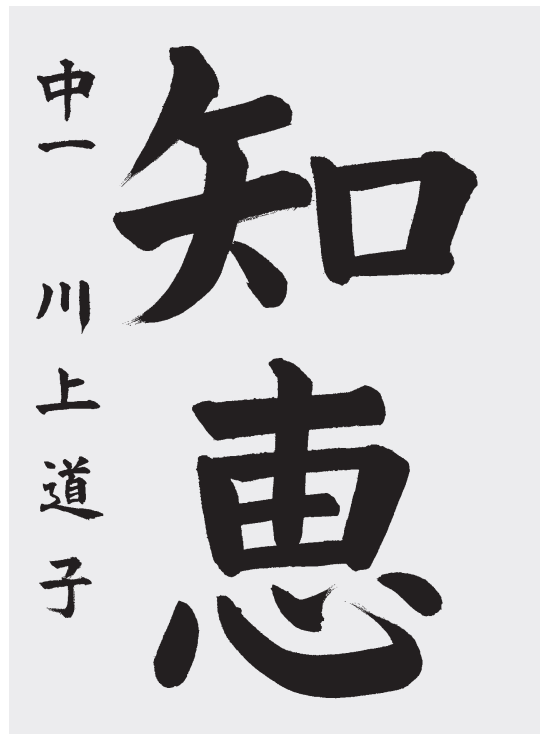
片岡豪峰先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

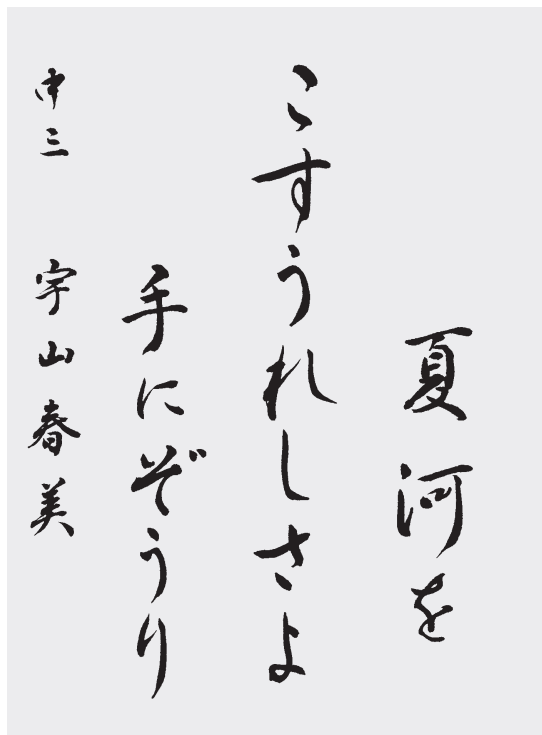
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



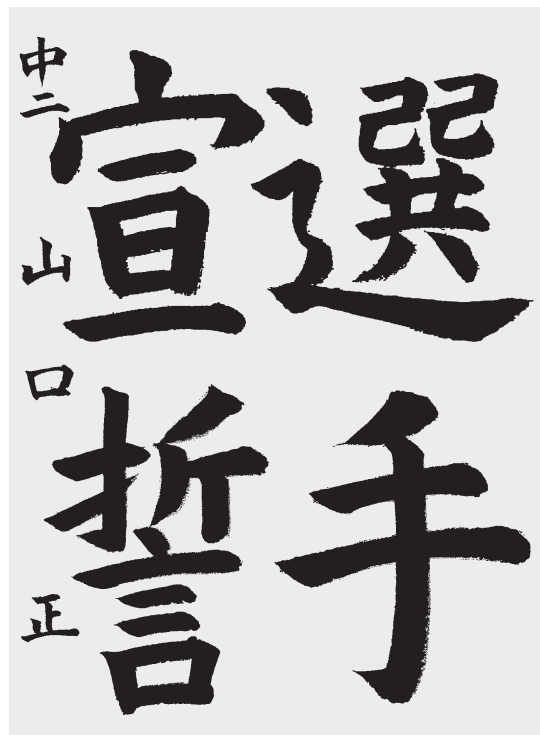
広瀬舟雲先生



半田藤扇先生



辻元大雲先生



前田龍雲先生

毛筆参考手本解説(2)

6年

等間かく

浅く接する

夏至

〈筆順〉

一 ㄣ ㄣ ㄣ 夏 夏
一 ㄣ ㄣ ㄣ 至 至

夏至(ㄣ) 夏至(明) 夏至(教)

中学

※手本は許容で書いています。

知恵

〈許容〉

知恵(ㄣ)

ノミチ知知知
一 ㄣ ㄣ ㄣ 恵 恵

知恵(明)
知恵(教)

払いの位置

ダツ水

〈筆順〉

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

点の位置
長音記号
(音をのばす
時に使う)

選手宣言

〈筆順〉

ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ 選 選
ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ 手 手
ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ 宣 宣
ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ 誓 誓

選手宣言
選手宣言
選手宣言
選手宣言

ソーダ水(ㄣ)
ソーダ水(明)
ソーダ水(教)

筆圧
右はらい
筆圧のかけ方に
気をつける。

筆圧
左はらい
は先をそろえるように、
ゆっくりはらう

やさしい行書

太陽の季節

連続
点画の省略
日月

夏河を
こすうれしさよ
手にぞうり

行の整え方(配列)
● 行の中心に文字の中心をそろえる。
● 画数の少ない漢字や仮名は、やや小さめに書く。
● 字間・行間を、それぞれそろえる。
● 上下・左右の余白を適度に取る。
● 行頭の高さを工夫して書く
と、よりよい表現ができる。
(行頭をそろえてもよい)

ひらがなの字源 (392)

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

り	そ	に	よ	し	れ	こ	字源	字形
利	曾	仁	与	之	礼	己		
あり	そ	に	よ	し	れ	こ		

※ 字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※ 字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

例 行頭を揃えて書く
夏河を
こすうれしさよ
手にぞうり

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 4 年

小 学 3 年

支 部 名			
段・級			
学 年	四		
名 前	田代央起		
	に	色	皮
	あ	そ	ふ
	た	は	の
	る		中
	と	強	の
	ふ	い	メ
	え	し	ラ
	る	が	ニ
	。	い	ン
		線	



〈筆順〉
糸 纟 紵 紵 紵 紵
線 纟 線 明 線 教



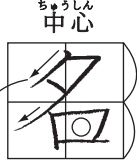
〈筆順〉
弘 弘 弘 弘 弘 弘
強 弘 強 明 強 教



〈筆順〉
ノ ノ ノ ノ ノ ノ
皮 皮 明 皮 教

漢字の外形をみて正しく整えましょう。

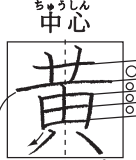
支 部 名			
段・級			
学 年	三		
名 前	坂上真実		
	花	み	
	に	ち	
	も	ば	
	名	た	
	ま	の	
	え	黄	
	が	色	
	あ	の	
	る	の	



〈筆順〉
夕と口の組み立てに注意しましょう
ノ ク タ タ 名 名
名 名 明 名 教



〈筆順〉
力をぬいて
よこへまがる
色 色 明 色 教



〈筆順〉
一 十 十 十 十 十
黄 黄 明 黄 教

漢字の組み立てに気をつけて書きましょう。

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 6 年

小 学 5 年

支 部 名	短	の	
	い	俳	五
段・級	詩	句	七
	形	は	五
学 年	の	、	と
	文	世	い
名 前	学	界	う
	で	で	十
	す	最	七
	。	も	音

支 部 名	る	ね	
	と	て	ム
段・級	活	い	サ
	動	て	サ
学 年	を	、	ビ
	始	夕	は
名 前	め	方	昼
	る	暗	間
	。	く	は
		な	、

「へん」と「つくり」の組み立てに注意して書きましょう。

暗
「日」の大きさと位置
筆順
暗
暗
暗

動
つくり「力」下へ
最後の画の方向と長さ大切
筆順
動
動
動

活
シ(さんずい)の形
三角形になるように書く
筆順
活
活
活

漢字の字形を正しく、線と線の間隔に気を付けて書きましょう。

俳
とめる
はらう
筆順
俳
俳
俳

最
立てぎみに
「日」を扁平に
筆順に注意
最
最
最

学
中心
長く
筆順
学
学
学

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中 学 生 (行 書)

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年	中一			
名 前	久保朝日			

道理を発見することである。

することにより新しい知識や

温故知新とは、古いことを研究

中 学 生 (楷 書)

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年	中一			
名 前	久保朝日			

道理を発見することである。

することにより新しい知識や

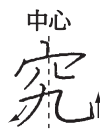
温故知新とは、古いことを研究

漢字とひらがなのバランスに気をつけて書きましょう。

道理を発見すること

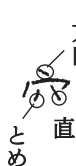


《筆順》
一 十 十 古 古
古 (ヨ) 古 明 古 教



《筆順》
、 一 一 一 一 究 究
究 (ヨ) 究 明 究 教

《許容》
方向



次につながる気持ちで書きましょう。

《次》(はつがしら) 筆順

フ シ フ シ フ シ

《楷》 発見 発 (ヨ) 発 明 発 教

次につながる気持ち

《行》 発見

《楷》 温故知新

点画の省略

《行》 温故知新

これからの作品締切日と課題

令和6年8月号～7年1月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)	小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
希望生きる 神秘	ガラス玉 登場	月夜 花火	工作 かき氷	ゆかた さなぎ	め せみ	8月4日	8月	
虫鳴く夜 えし	交流 不言実行	防災 敬老の日	満月 ポスター	星 王さま	えいが みのり	9月8日	9月	
宇宙開発 の朝	天下(九成宮醴泉銘) 秋晴れ	調査 演奏会	主人公 金魚	区間 研究	川 ぶどう	10月6日	10月	
公平無私 月かげ	清新(九成宮醴泉銘) さゆる	晩秋 貿易港	大使館 豊作	成長 絵本	光 生きる	11月5日	11月	
理想実現 の調和	春林(集字聖教序) 自然と	常識 武道館	子守歌 師走	注文 デザイン	冬山 花たば	12月3日	12月	
温故知新 ゆき	大聖(集字聖教序) ぼたん	千鳥 富士山頂	賀正 計画案	お年玉 新年	学ぶ 元日	1月6日	1月	

8月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

を	あ
か	つ
き	く
ま	て
し	あ
た	せ
。	

小 2

と	ま
う	ど
さ	か
ぎ	ら
が	月
い	を
ま	見
し	る

小 3

ん	交
に	番
道	で
を	お
教	ま
わ	わ
っ	り
た	さ
。	

小 4

虫	て	
が	い	田
や	る	や
っ	と	畑
て	、	で
く	い	作
る	ろ	物
。	い	を
	ろ	育
	な	て

小 5

な	の	
り	中	月
体	で	へ
が	は	旅
う	、	する
き	重	る
ま	力	ロ
す	が	ケ
。	無	ッ
	く	ト

小 6

築	世	東
の	界	大
正	的	寺
倉	に	の
院	有	林
が	名	の
あ	な	お
る	木	く
	造	に
	建	

中学生

て	す
髪	べ
の	て
毛	の
を	ホ
と	乳
か	類
し	は
ま	毛
す	づ
。	く
	ろ
	い
	を
	し

書写を知り 学び楽しむ



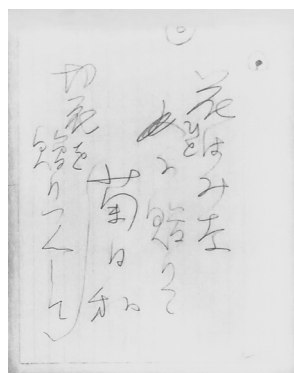
広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第88回 宮澤賢治の手書き文字

岩手県花巻市に宮澤賢治記念館・宮澤賢治イーハトーブ館・宮澤賢治童話村がある。ここは高速道路の花巻空港ICから車で約10分。または、新幹線の新花巻駅から車で3分ほどの所にこれらはある。新花巻駅西口ロータリーに「山猫軒」という名のレストランを見つけたので入ってみる。この店名は賢治の童話「注文の多い料理店」の中に出てくるもので、ゆえに架空の店と思いつ、「入口に掛けるヒノキの縦看板」をイメージした書作品をかつて制作したことがあった。新幹線の駅前付近が閑散としていたのに対して、なんとこの店内はお客さんでいっぱい。一瞬狐にまつまされたようであった。広い座敷に通され、30分ほど待たされようやく注文。座敷の片隅に「わんこそば」用のお膳とお碗が何段も積まれていたが、威勢のよい声のお姉様方が傍らに立ち、そばを盛る岩手名物「わんこそば」の情景を想像したが、本日は無いということで残念。花巻が発祥の地とのことであった。

そして、宮澤賢治記念館に向かった。宮澤賢治は、郷里花巻で農学校の教員として、また農業の研究者として尽力し、作家としては童話約100篇、短歌約900首、詩約800篇、教材用絵図、絵画、短篇など実に多彩な才能の持ち主で独自の芸術の世界をつくりだした人である。賢治が便箋や原稿用紙に執筆するときは、主として鉛筆や墨を用いているが、漢字は直線を利かした構えの大きな字形のなかに曲線的な筆画の動きをわずかに混ぜた賢治独特の書風である。対する平仮名は曲線的な優しい感じの線の中に直線をプラスした書に見えた。これらの筆跡は、早い速度で達筆に記されているため少々読みにくい。実物を拝見すると、思いついた文章を忘れないうちにできるだけ早く書き込むという性格であったようである。私も、書き留め



◀ 賢治の俳句の草稿

ないとせつかく考え付いた案が頭から消えてしまふたちで、記憶や発想を書き写すためのメモも同時に兼ねていたものと考え。文章の誤りは塗りつぶしたり二重線を引いて消し、書き加えたい文章は、余白に書いて囲い、この箇所から線を引きのぼして挿入。これを何回も繰り返し納得するまで推敲して完成させている様子がよくわかり、まさに作家の原稿であった。

ところで、私は、同市内の北上川西岸の地名にもなっている「イギリス海岸」を見たかったのが来訪のもう一つの理由である。賢治が、イギリスのドーバー海峡の白亜の海岸を連想させる泥岩層が露出することになみ、名付けた場所とのことである。賢治の作品に「イギリス海岸」があり、この中で「全くもうイギリスあたりの白亜の海岸を歩いてあるやうな気がするのでした。」と記す通り、賢治にとっての憧れからこの名を地元の河岸に付けたとされる。五月の連休中、訪問したのだが、雪解け水が集中しているのか北上川の流量は多めで滔滔としていたので川底の泥岩層を見ることができなかった。ところで賢治の研究者として制作した図版類は実に緻密で、この中へ書き入れた手書き文字は、

原稿用紙に書いた文字と全く異なり、読みやすさを重視するため、フリーハンドで書いた「明朝体」で書き入れ記しているのであった。(つづく)

今月のホープ



小六 鈴木杏菜 (東葉)

紙に対して程よい太細で、名前までバランスよく整えました。特に平がなが美しく筆の弾力がよく利いています。



小四 神作咲良 (房州)

のびやかな筆運びで太細の変化もバランス良く書いています。はね・はらいや名前もていねいで立派な作品です。

支那名	淳香
段・級	準特待
学 年	中三
氏 名	大室結愛

中三 大室結愛 (淳香)

正確で整った字形は抜群の美しさです。懐大きく、温かみもあり安定しています。名前も堂々と立派に書けました。

支那名	市川
段・級	三
学 年	二
名 前	しも田ゆ月

小二 霜田結月 (市川)

ひらがなカタカナの調和が見事です。一字一字^{いちじいちじお}落^おち着^ちいてしっ^しかり書^かけました。字形の美^みしさと丁寧^{みりよく}さが魅力です。

幼・1年

め
こいけりみ

せみ
小一 みやけせいこ

2年

ゆか
小二 夏木丸

さな
小二 さくまかの

3年

工作
小三 山川一子

氷かき
小三 上田友子

4年

月夜
小四 上田和子

花火
小四 山口ゆり子

5年

登場
小五 仙石洋二

右は
小五 久米田正

6年

スガラ
小六 佐田太郎

達成
小六 江川勝男

中学

神秘
中一 三浦宏太

天測体
中二 清水愛

生きる
希望
中三 林仁美

夏草や
兵どもが
夢の跡
中三 石川文

編集余録

○春季昇段級試験の審査が終了しました。今年も大変多くの出品があり、審査員の先生方で一点一点丁寧に審査しました。「合格証」は団体の先生宛にお送りしますので、楽しみにしててください。

○月例審査で写真版に掲載したい作品がありました。残念なことに、漢字の書き間違いや、課題違いがありました。作品を提出する際、もう一度自分の作品をよく見直してください。また、毛筆硬筆ともに名前まで気持ちよく切らず丁寧に書いてください。硬筆の作品は、消しゴムを使わないよう努力しましょう。

○今月のお手本「夏河をこすうれしさよ手にぞうり」は、与謝蕪村の俳句です。

与謝蕪村（1716-1783）は、江戸時代中期の俳人で、松尾芭蕉や小林一茶と並び、「江戸の三大俳人」と称された一人です。また画家としても有名で、俳句と絵画を織り交ぜた「俳画」という新しいジャンルを創り上げました。蕪村の俳画の代表作として、松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」の全文を書写し、そこに挿絵を入れた「奥の細道図巻」は国の重要文化財に指定されています。

「夏河をこすうれしさよ手にぞうり」を現代語訳にすると、「夏の日の川を手にぞうりを持って裸足で渡るとは嬉しい」という意味で、少年時代を過ごした、蕪村の母親の故郷である丹後地方（京都府北部）で、幼少の頃の思い出や亡き母を懐かしみ、この句を詠んだとされています。

（悠輝）